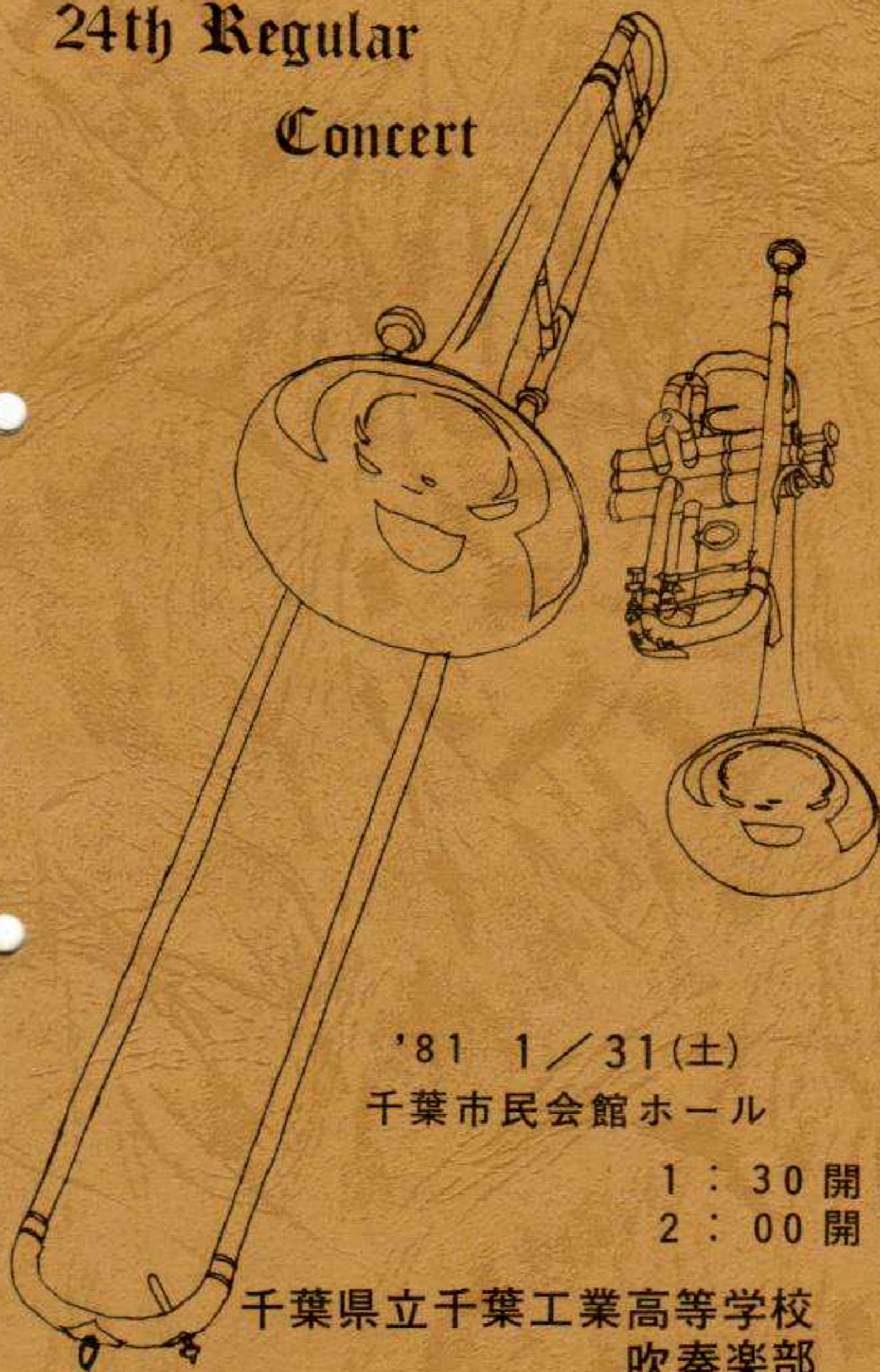


24th Regular Concert



'81 1 / 31 (土)
千葉市民会館ホール

1 : 30 開 場
2 : 00 開 演

千葉県立千葉工業高等学校
吹奏楽部

千葉工業高等学校吹奏楽部

Chiba technical Regular
high school 24th concert



ワグナー : マイスタージンガー
R. Wagner: Die Meistersinger

ラベル : 亡き王女のためのパヴァーヌ
M. Ravel: Pavane pour une infante defunte

ヘルツァー : ハイデックスブルグ万才ノ
R. Herzer: Hoch Heidecksburgノ



ウィリアムズ : スーパーマン
John Williams: Superman

ホワイト : 愛のテーマ
B. White: Thema of love

ボズスキ・ダス : ヴィアーオールアローン
Boz Scaggs: We've all alone

モーリスホワイト : 宇宙のファンタジー
Fantasy



アルフレッドリード : パンチネルロ
Alfred Reed: Punchinello

アルフレッドリード : アレルヤノランダムス.テ
Alleluia/Laudamus.te

アルフレッドリード : アルメニアンダンスパート・I
Armenian dances part.I

PROGRAM NOTES

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」……WAGNER

第一幕への前奏曲

14世紀頃、南ドイツの帝国直属の自由都市では、職業人達の階級や制度が固ってゆき、親方(マイスター)・職人(ゲレゼ)・従弟(レーニング)という、3つの身分に分けられました。下の身分から上に進むには厳しい試験が行われました。その試験は単に職業関係の技能だけではなく歌の教養をも求められました。それでも単に美しい声で流行歌を歌うのではなく、歌の中に文法・修辭・論理……etc と計7つの学集の知識を要求されました。

16世紀頃になると、いかめしい権威主義や形式主義が幅を利かせるようになりました。こういう時代に、ニュルンベルクにハンス・ザックス(1494~1576)という靴作りを職とするマイスターが、出現して約6000もの詩歌を書きその深遠高邁な内容をもって当時のニュルンベルクの市中に大きな新風を吹きこみました。このザックスこそ16世紀以来今日に至るまでニュルンベルクの市民達の誇りでもあります。

ワーグナー54歳の1867年にこの「マイスタージンガー」は完成されました。この第一幕の前奏曲は堂々たる「マイスタージンガー」の動機ではじまり「愛の動機」「行進の動機」……etc と曲は進行されています。

亡き王女のためのパヴァーヌ……M. ラヴェル

この曲は、ラヴェルが24歳(1899年)の時に、ピアノ独奏曲として書き、パリのポリニャック公爵夫人に献呈されたもので、1910年にラヴェル自身の手により2管編成の小さなオーケストラに編曲されました。ボレロやミロワールと共にラヴェルの管弦楽書法が魔術的な妙技を発揮している美しい曲です。

ラヴェルはいわゆる天才的な作曲家ではありませんでした。「一曲作るごとに自分自身を削っていく思いがした」と言っています。その当時、同時代の作曲家であるドビュッシー程人気があったわけでもありませんし、実際その作曲活動は地味なものでした。晩年は、自動車事故の後遺症の為に苦しんだと伝えられています。ラヴェルの苦悩の運命がこの72小節という短かい中にあらわれているような気がします。



パンチネルロ（ロマンティックは喜劇のための序曲）

……………A、リード

1973年イリノイ州マコムブの西イリノイ大学ウインド・アンサンブルの依頼により作曲され、ワリストフォー。イゾーの指揮で同年11月14日に初演されました。曲は2/4 拍子の木管楽器の軽快なテーマではじめられ、つづいて2つの主題が提示されます。中間部は、ゆっくりとした部分でテーマがホルンによって美しく歌い出され、これに木管楽器がからまり、金管楽器も加わって巧みに転調しながら進みます。

そして再び最初の 2/4 拍子のテーマに戻り、最後にトロンボーンとトランペットによる、ファンファーレ風のメロディが演奏され、この曲を華やかに、そして堂々としめくくって終わります。

各楽器のもつ性質を実にうまくまとめたリードの曲の中でも特にリードらしい曲ではないでしょうか。

アレルヤノランダムス・テ……………A、リード

この曲は、1973年にオハイオ州カントンにあるマローン大学のコンサートバンドによって初演されました。作曲者であるアルフレッド・リードはこの曲について、「この曲は歌詩のない神への讃歌です。曲には3つの主題が現れます。第一主題は金管楽器によるどっしりしたコワイア、第二主題はホルンと木管楽器による長いうねうねした旋律、そして第三主題ははじめトランペットセクションのファンファーレとして現れ、次第に各セクションに発展します。

はじめの2つの主題は、リズムカルな第三主題に受けつがれ、再び第二主題に移ります。そして更に第一主題に戻り、輝かしいコーダに入って終わります。」と、のべています。

おうおうしく、かつ輝やかしい旋律は、美しい聖歌を思わせるようで、神への讃美にふさわしい曲だと思います。ちなみにアレルヤノランダムス・テとは、「アレルヤノ御身を讃美し奉る。」という意味です。

アルメニアンダンス・パートI……………A、リード

この曲（Part I）は、作曲者のアルフレッド・リードが4楽章の組曲として作曲したなかの第一楽章にあたります。

1972年にこの曲が完成し、1973年にイリノイ大学で開かれた、全米大学バンド・ディレクター協会のコンベンションの席上でハリー・ビジンの指揮によって初演されました。

この曲（Part I）は、ゴミダス・ヴァタベットのアルメニア民謡の中から5曲使われています。この曲の初めの部分が「杏の木」という曲で、1904年に採譜された3つのオリジナルな曲を組合せた表情豊かな曲です。

「杏の木」の途中から少し早くなって伴奏がシンコペーションのリズムになる所から「やまうずらの歌」に変わります。「やまうずらの歌」は、アルメニア音楽の蒐集家ゴミダス、ヴァタベットのオリジナルで、やまうずらの歩き回る様子を描いています。

そのあと打楽器が5/8拍子のリズムに変わる変拍子の部分が、「ホイ、私のナザン」という曲で1908年にゴミダスが合唱曲に編曲したもので、ナザンという少女に対する若者の愛の歌です。この部分はこの曲の中でもリズムの面白い、特徴のある所です。

そのあとのゆっくりとした3/4拍子が「アラギアス」という曲です。「アラギアス」というのは、アルメニアの山の名前です。

そして最後に2/4の拍子に変わり、ロシアのコザックダンスの「ホバック」のように軽快な部分が、「ゆけ、ゆけ」という曲です。

以上 白尾、川崎、高橋（記）

出演者をめぐって

＊ 指揮者 中川 自 通

船橋吹奏楽団、中央大学オーケストラ、市川交響楽団、習志野フィルハーモニーを経て、1972年に新交響楽団入団。1974年より同楽団首席打楽器奏者。（新交響楽団は1978年のサントリイ音楽賞を受け、毎年邦人作曲家の作品を取り上げる）。1978年より千葉工業高等学校吹奏楽部の講師として生徒の指導にあたる。ストビンスキー、マーラー、ブルックナーなどの大曲を得意とする。本校OB。

＊ クラリネット

我が部のクラリネットパートは、3年生の白尾君、高橋君、川崎君と2年生の相野君、鈴木君、そして1年生の成田君で組織されています。

パートリーダーの白尾君はコンダクターも努めています。そして高橋君は出席係を努めていて、理由もなく休んだり、遅刻などすると腹筋100回などと、非常な宣告をします。

最後に川崎君ですが、彼は前に学校の副会長をやったことがあり、その立ち会い演説会では「がんばりますノ」の1言でみごとに当選しました。クラリネットパートで6人という少人数ですが、それにもめげずに毎日夜遅くまで頑張ってきましたので、きっと定演を成功させてくれると思います。

好きですノ 白尾

使用上の注意をよく読んでご覧下さい。 川崎

毎日ありがとうございます。これからもよろしく。 相野

ちなみにぼくは、島田紳助ではありません。 鈴木

ぼくは象に踏まれても壊れません。 成田

＊ フ ル ー ト

フルートの奏者である大塚君と伊藤さんの紹介の前に、フルートの役割を述べたいと思います。フルートは、ブラスバンドやオーケストラの引き立て役であり、きらびやかな音で演奏を盛り上げ、独奏として美しい音色をもっています。

2人とも去年の定演が終わってから入ってきました。大塚君は、パートリーダーとして一生懸命がんばっています。伊藤さんは、このバンドただ一人の女性です。バンドの中ではおとなしいですが、この部では欠くことのできない大きな存在となっています。2人の性格が少し似ているせいか、とてもよくまとまったパートなので2人がいるかぎり、わが千工吹奏楽部は健在でしょう。

おへそに梅干をつけるとうがらないってほんと？ 大塚

未熟な私ですけど、今日は精いっぱい頑張ります。 伊藤

＊ サ ッ ク ス

さて、サクスパートですけれど、実に個々の個性にバラエティがあり、パートとなると“ハテ”と考えてしまうのであります。また何を隠そうこのパートは何よりも（練習よりも）ゲームが大好きなのであります。トランプ、インベーダ……等々。あらゆる遊びのことならサクスパートに任しておけばよいといっても過言ではないでしょう。とき時空腹時に胃痛を押さえながら練習するパートリーダーのS君、バルタン星人ことU君のおる愉快的パートです。

亜空間の漫才バンドよろしく。 佐藤

にじみでる向上的精神で燃えるぞ。 渡辺

あ〜つかれたハイIE-1。 磯貝

＊ オ ー ボ ー

このオーボエという楽器は、二枚舌でありまして、この二枚舌というのは一般に政治家などに多く用いられる二枚舌とは違いますので悪からず。そしてこの二枚舌つまりダブルリードをいかに自分に合うように作るかが、この楽器を吹く者の使命なのであります。しかし、この二枚舌というものがクセモノでありまして、これをきちんと音が出るように作る難かしさは、プロもアマも同じだそうです。こ多聞にももれずこの2人もうわさの二枚舌を作るために悪戦苦闘の日々を送って参りました。本日は一年間の長きにわたり苦しみをのりこえたこの二人の輝きある音色をとくとお聴き下さい。

家のそばに大森駅ができるのだ。 井上

家のそばに山倉ダムがあるのだ。 白井

＊ ホ ル ン

ホルンの音色を動物に例えたとんでもないでしょうか？象の鳴き声かな？そして、音色をちょっと思い出して見て下さい。どのような情景が浮んできますか？サバンナを駆ける白い獅子・・・まあ、みんな人それぞれ違います。が、心を揺らす美しい音がします。そのホルンのパートを受け持っているのが、部長の風外君と、一年の中台君の2人です。この2人の性格は全く違いますが、体格は似ていてまるで兄弟のようです。風外君は、気がしっかりしていて部長にふさわしい人物ですが、一回怒ると気が狂ったように怒ります。中台君は、おとなしい性格です。そしてとても面白く、みんなからドンチャンと呼ばれています。又、一番練習熱心なパートといったら、このパートではないでしょうか。夏の暑い日も、冬の寒い日も負けずに練習していました。今日はきっと、美しいホルンの音色で心を満喫させてくれると思います。

最後までじっくりとお聞き下さい。

青春＝音楽、Horn 万才ノ 風外

みなさん、アンケートを書いて下さい。 中台

＊ ト ラ ン ペ ッ ト

このパートの面々を紹介いたします。リーダーは村田君3年生、地方出身、むっつり型です。この人普段はとてもおとなしいのですが、一度狂い出すと、とても同一人物だとは思えない程です。2年生の和田君は、村田君とは性格が似ていますが、ただうわさを立てるのが非常にうまい人です。又、1年生の若名君については、「ヤンチャ坊主」の一言につきます。以上いろいろ悪口を書きましたが、私が見た限りでは一番上手なパートだと思います。どうかこの三人の美しい音色を心ゆくまでお聴き下さい。

今……、完全燃焼。 村田

千工吹参上ノ俺たちをとめられるか。 和田

カスタムの銀メッキを持っています。 若名

＊ トロンボーン

我がバンドのトロンボーンについて話をさせて下さい。

まず、パートリーダーの野中君、彼は2年生ながらパートを立派にまとめています。ボーンの他にピアノ、ベースを嗜んでおり、所詮音楽人間と呼ばれるような人です。

次はBas ボーンを努める白鳥君、彼は非常におとなしい性格なのですが、練習をまじめにやる点ではピカーではないでしょうか？

最後に2nd ボーンの藤本君、彼は1年のリーダーを努めており、先々とても楽しみな人物です。

「ごゆっくりどうぞ・・・」。 野中

皆さん、今日は、バス、トロンボーンの白鳥です。 白鳥

最後まで演奏を聞いて行って下さい。 藤本

＊ ユーホニウム

我等のバンドの金管奏者は、みんなが地方よりの通学者ですが、このユーホニウムの二人は、群をぬいての僻地人です。一人は三年生の熊谷君です。この人は毎日毎日、雨の日も風の日も家の差さを、ものともせず部にやってきます。もう1人は1年生の松本君。彼の場合はもっとすごいのです。彼はなんと八街から来ていまして、ニクタンームも多く、ヤチマダ、ラッカセイ、カントリーなどなど・・・彼を呼ぶ時、これらの言葉が部屋の中を飛びかうのです。以上の2人は、それぞれ遠くの家から1陣の風となってやってくるのです。

今日は、この2人のまろやかな音色をお聴き下さい。

ケイちゃん、ルミちゃん、がんばっかんネー。 熊谷

またドジャッチマッタノ 八街のユーホ吹き。 松本

＊ チューバ

大綱の働く農協青年、小林少年です。あのものすごくでっかい“ばけ物”のようなチューバを吹くには、ものすごく大変だろう。大男かブッチャーでなければ吹けないのではないか？という今までの概念を一気に打ち破り、ごらんの通りの姿で堂々と吹き鳴らしているのです。

彼のスラリとしたボディラインの秘密は・・・、やはり自家製トマトジュースにあるようです。また、彼の口ぐせは「おねげえでございます」だ。それではごゆっくりどうぞ。

「俺の演奏をハートで受けとめてくれ。」 小林

＊ パーカッション

打楽器とは字をごらんになってわかるように、楽器をたたいて音を楽しむものです。だから我が部のパーカッションパートでは自分の頭を叩いて、なかなか良い音が出ると“エヘラ、エヘラ”喜んでいきます。ですから“クルクルパーカッション”と言うのです。冗談、このパートは個性のある人の集団で、例えば目立ちたがりやの者、内気な者、くそまじめな者などおりまして、結構愉快にやっています。しかし、ひとたびバチを持つと皆、目つきが変るほど一生懸命になります。

今日はきっとこのパーカッションのすばらしい演奏をお聞せできると思います。

どうぞご期待ください。

ぼくは、カトー君とは根本的にちがいます。 榎木沢

演奏できるかな。ザイロやるぞノ吉原すみれがなんだ。 吉野

演奏中お聞き苦しい点がございましたらお詫びします。 永井

おれは、けんばんを絶対に失敗しないから。 広瀬

榎木沢君と僕を間違えないで下さい。 加藤

俺のサウンドを聞いてくれノ 関本

司会 黒木博子 東京芸術大学器楽科4年

ステージ

